

災害時のEMISへの被災状況入力に必要なステップ

災害時にEMIS(広域災害救急医療情報システム)へ正確・迅速に入力するために、医療施設の担当者が確認すべき6つのステップ

STEP
1

EMIS入力必要性の理解

災害時のEMIS入力必要性を理解している。医療施設基本情報を随時更新している。

>

被災地の医療情報をリアルタイムで共有し、避けられた災害死を回避するためのシステム。支援体制の構築にあたり、要支援or支援不要を外部に発信する。受援のためには、自家発電機や貯水槽有無等の施設基本情報も重要。

STEP
2

EMISモード切替の覚知

EMISのモード切替(平時モード→警戒・災害モード、警戒モード→災害モード)時は一斉送信メールアドレスNo.1にのみメールが発信される。施設代表アドレスだけでなく、入力担当者が自宅等でも確認できる個人のメールアドレス等を複数設定する(入力担当は、複数名体制が理想)。県は、モード切替後に緊急時・詳細入力依頼を一斉送信でも送信する。

>

①EMIS本番環境にログインし、右上にある施設名右横の「V」よりマイページへ。
②「一斉連絡情報」より、「編集」をクリックし、メールアドレスを複数登録。
※最大で10メールアドレスが登録可能

STEP
3

いつでも・どこでもEMISへログインができる

ユーザ名・パスワードを複数入力担当者が共有済かつインターネット環境があれば、施設PCに加えて担当者スマートフォン等でもいつでも・どこでもEMISへログイン可能。

>

「EMISポータルサイト」で検索し、ページ中段にある「医療機関、都道府県、市区町村、保健所、消防、その他組織はこちら」からログイン。
被災時に慌ててユーザ名・パスワードを確認することがないように、入力担当者はログインできるかを平時より確認。

STEP
4

緊急時・詳細入力の習得

被害の有無に関わらずEMISモード切替時は入力が必要であることを理解している。緊急時入力・詳細入力について、入力項目・内容を理解し、正しく入力できる。

>

未入力状態では、支援が不要なので未入力 or 要支援だが入力不可なのは外部では判断はできなため、被害有無問わず入力が必要。
各項目について、入力訓練の実施も有効。

STEP
5

随時更新の実施

被災状況が変わった場合は、随時更新する必要があることを理解している。

>

被災時のEMIS入力依頼は定期依頼とはならない可能性もあるため、被災状況については、随時更新が必要。
あとから何度でも修正可能なので、まずは最低限入力→後で更新で構いません。

STEP
6

周辺施設の被災状況確認

周辺施設の施設被災状況も確認ができる。

>

EMISメニュー: 医療機関被災・支援状況 より周辺施設の被災状況等の確認可。



【参考】
EMISポータルサイト マニュアルURL
医療機関アカウント 箇所をご覧ください。

県より長崎大学病院災害医療支援室に委託している災害研修への参加、医療機関防災訓練へのEMIS入力訓練の組み込み、長崎県災害医療ロジスティクス検討部会主催のEMIS入力訓練(R8より開始予定)への参加 も有効です。